

令和2年度 長寿の里・十四山 事業報告

《全体》

令和2年度の年間目標「地域と共生、開かれた施設の提供」をもとに、施設で出来る事を考え行動した。しかし、年度当初より新型コロナウイルス感染防止対策から始まり、新型コロナウイルスと共いの運営となりました。地域に向けての発信も感染防止対策が中心となり、認知症カフェやいこにこサロン、施設や地域行事の中止と、地域の社会資源としての役割が果たせませんでした。施設内整備として、補助金を活用した移乗用介護ロボットや送迎車両の増設を行い、入居者や職員に更なるやさしい職場環境が提供でき人材定着を目指した。

《特養》

男性…28名（平均年齢 84.9 歳）、女性…65名（平均年齢 86.0 歳）

平均介護度…3.9、年間稼働率…98.7%、看取り件数…26件、

長期入院による退居者数…5名

既存・新規両入居者の介護度の重度化や認知症が増え、過去2年間看取り件数が30件を超え、令和2年度も引き続いている。待機入居者の確保が継続議題となっている。新型コロナウイルスにより地域との交流は途切れており次年度の課題としたい。施設内整備に注力し計画的に改修・更新し、入居者に生活しやすく、職員には働きやすい環境整備を行った。また重度化に対応できるよう福祉用具や介護ロボットを積極的に導入し、職員の身体的精神的負担の軽減を図った。

《ショート》

7床と限られたベッド数の中で、定期利用者や新規利用者の受入れにあたり、自居宅他居宅と連携しながら、うまくベッドコントロールできた。共生型サービスより利用者と契約締結し利用に繋げながら、高齢・障害と利用者に合わせて個別ケアに力を入れる事ができた。

《デイ》

事業所規模が大規模Ⅰとなったが、利用者確保に向け継続した営業を行ったことで、コロナ禍でも利用者数を維持することができた。新型コロナウイルス感染対策により、機能訓練室を別にする事と、訓練の充実を目的に個別化を図り、利用者一人ひとりを差別化することで、利用者満足の向上に繋がった。また、職員の増員配置に考慮し、利用者に関わる時間を増やせたことで、利用者が時間を無駄にせず活発に活動できた。更なる利用者満足に繋がっていきたい。

《居宅》

新型コロナウイルスに伴い、認知症カフェやいこにこサロンが中止となる。また利用者宅への訪問が減少し、本人や家族との関わりが希薄となってしまったが、電話での状況確認の回数を増やし、面会方法を窓越しや扉越しに行うなど工夫する事で、密接な情報交換を行う事ができた。介護支援専門員を増員したことで、行政からの情報収集に敏感に行動をとることができ、近隣市町村より新規利用者の紹介を受け、利用者家族のニーズに応える事ができた。